

境川流域での流域水害対策計画の進捗状況について

境川・猿渡川流域水害対策計画は、河川の整備、下水道の整備、その他流域の整備が連携して、年超過確率 1/10 (63mm/hr) の規模の降雨に対し、著しい浸水被害（住宅床上浸水被害）を解消することを目的としています。

また、民間等でも開発に対する流出抑制を着実に進めていただくことなどで、流域が一体となって総合治水対策に取り組んでいます。

(県・市町による整備)



①河川の整備

- ・逢妻川において中堤の撤去、猿渡川において河床掘削を実施しました。
⇒引き続き、逢妻川の中堤撤去や洪水調節池、猿渡川の河床掘削を始め継続的に整備を進め浸水被害の低減を図っていきます。



猿渡川整備状況

②下水道の整備

- ・知立市や東浦町で整備が進められ、雨水ポンプ場の整備進捗率は約 28%となりました。また、雨水調整池の整備進捗率は約 60%となっております。
⇒引き続き整備を進め、浸水被害の低減を図っていきます。



逢妻川整備状況

③その他流域の整備

- ・流域内で約 1 万 7 千 m^3 の貯留施設を整備しました。
⇒流域の市町が整備する貯留施設は、これまでに 21 万 m^3 を貯留できる施設が整備(進捗率 約 47%)されており、浸水被害軽減に寄与しています。



流域内での貯留施設整備
大府市 発達センターみのり

(流出の抑制)

民間等でも 500 m^2 以上の開発等では雨水流出抑制対策を実施していただいております、これまでに 1,082 件の宅地開発等において、約 22 万 m^3 の貯留施設や約 43 万 m^2 の透水性舗装などが設置されております。



民間開発等における流出抑制対策の
イメージ

今後も流域全体で事業を推進し、継続的にモニタリングをおこなってまいります。